2023年度日本惑星科学会秋季講演会開催報告

2023年日本惑星科学会秋季講演会実行委員長(広島LOC) 薮田 ひかる[1]

1. 概要

2023年10月11日(水)から13日(金)までの3日間，2023年日本惑星科学会秋季講演会が広島市文化交流会館(口頭発表会場)とアステールプラザ(ポスター発表会場)にて，4年ぶりの完全対面形式として開催された．参加申込総数は267名，予稿申込総数は205件であった．この数は日本惑星科学会史上最多であると聞いている．LOCは，広島大学先進理工系科学研究科教員の薮田ひかる，宮原正明，小池みずほ，ウェブ係の河上洋輝(広島大学先進理工系科学研究科博士後期課程1年)が務めた．

2. 日程・講演会会場選定の経緯

開催日程を9月か10月のいずれにするかは毎年のLOCが配慮する点である．9月は夏休みなので参加しやすいが，惑星科学会以外の複数の学会も連続開催され，台風の影響も受けやすい(広島は土砂災害に弱い)．10月に入ると大学は始まるとはいえまだ慌ただしすぎず，季節的にも過ごしやすく，広島では酒祭りも楽しめる．これらを総合的に検討し，今回は10月に開催することにした．

講演会会場には，LOCが所属機関する大学研究機関が使われるのが一般的だが，広島大学が所在する東広島市はアクセスがやや不便なので，広島市内で開催するほうが多数の参加者の方々にご出席いただけて良いのではないか，と考えていた．一方で大学の施設を使う方がコスト面ではメリットがある

写真1: 広島市文化交流会館 大会議室「銀河」での口頭発表の様子.

ので，開催1年6ヶ月前までは両方の候補地を並行して検討していた．ところが2022年に入って，広島大学の東広島キャンパス理学部棟の改修工事計画が急遽実施されることになり，利用可能な教室が制限され，騒音も想定される点で東広島キャンパスでの開催可能性は低くなった．併せて検討していた広島市内の広島大学東千田キャンパスも，法学部移転のために使えないということがわかった．以上から，広島市内での開催の選択肢が唯一となった．待ちに待った完全対面開催ということもあり，すこし贅沢ではあったが，参加者の皆さんに満足していただけることを最優先に，広島駅からアクセスの良い2つの会場施設を確保した．参加費をその分1000円ずつ値上げさせていただき，一般会員 5000円，学生会員3000円，非会員 6000円に設定した．

口頭発表会場に選定した広島市文化交流会館大会議室「銀河」は，天井からシャンデリアがつりさげられていて，玄田行事部会長からは「結婚式みたいな

1.広島大学大学院先進理工系科学研究科
hyabuta@hiroshima-u.ac.jp

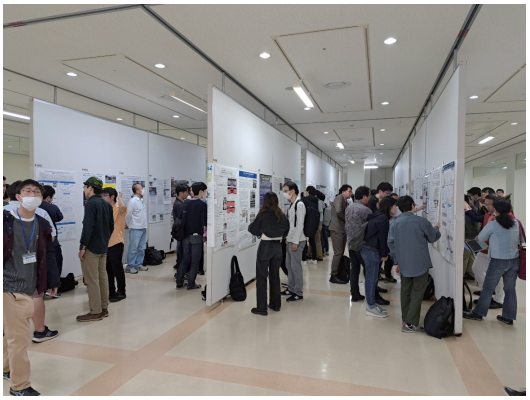

写真2: アステールプラザ 市民ギャラリーでのポスター発表の様子.

会場」と感想をいただいた．ゆとりのある収容面積，十分に大きなスクリーン，腰をいためにくい椅子と机を用意し，国際学会に近い雰囲気をプロデュースした(写真1)．アステールプラザは広島市文化交流会館に隣接し，ポスター発表会場の他に運営委員会，賞選考委員会，参加者の休憩室のための各部屋に利用した．ポスター発表会場に選定した市民ギャラリーでは，可動式間仕切りをポスターパネルとして利用できたので，ポスターパネルを別にレンタルする必要がなく大変便利であった(写真2)．

3. プログラム編成

ここ数年の秋季講演会では口頭発表申込数が増えていて，一人当たりの発表時間がその分短くなっていることが話題となっており，毎年のLOCがプログラム編成に工夫に工夫を重ねてきた．それを踏まえて，行事部会から助言いただき，今年は一人当たり最短10分の発表時間を確保することを目標とした．口頭発表申し込み数が多数であった場合，発表申込時に提出された抄録の内容に基づき実行委員会の判断で一部をポスター発表とする際に，試行的にSOCを設けて，抄録査読による口頭発表数の調整を分野毎に行った．SOCには，LOCの3名に加え，各分野の専門家として道上達広会員，百瀬宗武会員，諸田智克会員，木村淳会員，阿部新助会員，玄田英典会員にご担当いただいた．できるだけ学生･若手に発表機会を提供することを意識し，一部のシニア･中堅の方々には個別に相談したりするなどしてポスターへの移行にご協力いただいた．同じ将来惑星探査計画に関する発表が複数ある場合も口頭発表数を調整した．その結果，口頭発表を希望していた35件近くの申し込みをポスターに移動することにより，口頭発表(一般講演10分/人，最優秀発表賞選考15分/人，最優秀研究者賞受賞講演60分)91件，ポスター発表114件からなるプログラムを編成した．参加者同士がじっくり交流できるよう，ポスターコアタイムと昼休みも十分に設けた．理想的には，発表時間を確保しつつ，各人の発表形式希望を満たすことができるとより望ましい．惑星科学会の拡大に伴って講演会形式を少しずつ刷新する時期にきているのかもしれない．

4. 懇親会

2日目の10月12日に，講演会会場から徒歩15~20分の距離にあるホテルメルパルク広島 6F宴会場「瑞雲」で懇親会を開催した．バイキング立食形式+飲み放題で，一般会員と非会員は7000円，学生会員には割引をして5000円の参加費とした．竝木則行会長の乾杯の音頭とLOCへの有難い労いのお言葉をいただき，待ちに待った4年ぶりの懇親会が実現した．‥と思いきや，開始30分ほどで，あれよあれよという間にほぼすべてのお料理が終わってしまったのである･･･!「このあと(広島の)牡蠣フライが出てくるんですよね??」と聞いてきてくれる人もおられれば，なにかを言いたそうな表情で私の方を遠目に見てくる方々もちらほら．参加者数分のお料理をもちろん手配したはずで，ホテル責任者に聞いてもこの時点でお出しした全てが人数分だという．これは･･･食欲旺盛な学生さん達に多数参加してもらったから?それとも，久々の懇親会への皆さんの勢いの良さのあらわれ?ホテルの料理はお上品すぎる? ひぇぇどうしよう,, と動揺している私へ，何人かの方々が「いやぁ，いつもこんなもん(あっという間に料理はなくなる)だよ」とフォローくださった．もし，遅れて参加して何も食べられなかった人たちがいたら，すみませんでした．

そうは言っても，さすがの惑星科学会員の皆さん，

飲み放題のお酒だけで，残りの90分間さらに盛り上がってくださった．お腹が空きましたねぇ，と言いながらも日本酒を片手にご機嫌良く歓談してくださっている様子を見て，助かった．懇親会後，広島の街にくり出して二次会を楽しまれた方々も多く，良かった．

5. 収支報告

表に秋季講演会収支を示す．開催には，広島大学理学部長裁量経費，広島大学「プレート収束域の物質科学」研究拠点（HiPeR）から，講演会開催のための補助金（計25万円）を受けた．それでも昨今の物価高騰の影響で会場費が高額となり，79,310円の赤字となったため，開催後に日本惑星科学会からその分の補填を受けた．

表:2023年度秋季講演会収支.

2023年度秋季講演会収支	
収入	
講演会参加費	1,040,943
広大理学部長裁量経費	200,000
広大研究拠点協賛金	100,000
日本惑星科学会補填	79,310
合計	**1,420,253**
支出	
会場・備品費（文化交流会館）	1,191,070
会場費（アステール）	224,470
雑費	4,713
アルバイト経費(※)	323,245
合計 （(※)分除く）	**1,420,253**
収支	0

（※）薮田運営費交付金から支払い

6. おわりに

広島大学で秋季講演会を開催することについては，6年前から打診いただいていた．ここ数年間は薮田がはやぶさ2帰還試料初期分析を最優先していたため，プロジェクトを完遂した翌年である2023年に秋季講演会を主催する予定にしていた．素晴らしい発表と活発な討論が行われ，大盛況のうちに無事終了でき，ホッと安心している．参加してくださった全ての皆さんに御礼申し上げます．そして開催準備にあたり，前年度講演会を主催された百瀬会員をはじめとする茨城LOC，玄田行事部会長，情報化専門委員会，財務専門委員会，総務専門委員会からは数々の助言をいただいた．またSOCを引き受けてくださった皆さんには抄録査読のご協力をいただいた．ここに感謝申し上げます．今回LOCを共に務めていただくためにわざわざ日本惑星科学会に入会していただいた宮原会員と小池会員にも心強いご協力をいただき，深く感謝いたします．大学院生の河上さんには惑星科学が専門でないにも関わらず（本人は地震学が専門）ウェブ係を引き受けていただいた．彼は広島LOCを支えた影の功労者で，感謝してもしきれない．ウェブ係の引き継ぎをしてくださった茨城大学大学院生の折原龍太会員にも感謝いたします．当日の運営をアルバイトで手伝ってくれた広島大学の学生も，毎朝早く東広島市から広島市まで移動し，日頃よりも（？）てきぱきと積極的に動いてくれた姿を見て，意外とやるじゃん，と有り難く感じた．　開催期間中には偶然にも，NASAの小惑星探査機OSIRIS-RExが持ち帰った小惑星ベヌー試料の分析結果に関する速報が報道され，また小惑星探査機Psycheの打ち上げが成功するなど，惑星科学における華々しい出来事が満載の週となった．

まもなく，2024年度の秋季講演会が九州大学で開催される．バトンは中島健介会員へ．今年も皆さん，楽しんで盛り上がっていきましょう．